

令和2年度 全学FD・SD活動方針

【活動方針】

全学FD・SD委員会は、全学的なFD・SD活動の方針を作成するとともに、各学部におけるFD活動を主軸として進めるという方針を継続し、各学部の活動を支援・調整することを主眼とする。

本学の個性(特色)及び魅力の向上を図るうえで「教育の亜細亜」として一人ひとりの学生の取り組みと成長を促すため、アクティブ・ラーニングや初年次教育の充実化及び全学的なカリキュラム改革により教育効果を増進することが肝要である。

その一環として、令和2年度からの105分授業導入に向けて、令和元年度は各学部学科がFDグループ研究報告会にて研究成果を報告してもらい、準備を進めてきた。今年度はその105分授業における効果的な教育の点検と改善を図るため、授業実践の場での課題や成功例(失敗例)などを研究テーマとする。

また、中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会において討議された「教学マネジメント指針」が示されており、学修者の成長を学修者自身が自覚できるよう客観的な指標を用いることが重要である。そのための方策として、全学レベル・学位プログラムレベル(学部学科)・個々の教員のレベルにおいてそれぞれの目標と方針を示し、1年間活動する。

なお、今年度は、重点活動として、下記の2つのテーマを取り上げる。全学部学科において、【テーマ1】、【テーマ2】のいずれかをFDグループ研究のテーマとして設定し、令和2年12月開催予定の研修会において報告し、令和3年度のシラバス作成と授業に反映させることとする。

【活動テーマ】

**「教育の亜細亜」を確立するためのFD・SD活動
～学生の成長を学生自身が実感できるために～**

【令和2年度重点活動】

【テーマ1. 105分授業における効果的な教育の促進】

令和2年度からの105分授業の導入にあたり、各学部・学科におけるFDグループ研究の成果を授業内外での学修活性化に生かし、105分授業において効果的な教育を行うよう努める(できるだけ演習を除く主要科目で検証する)。

【具体的な取組事例】

■全学のレベル

- ①「授業改善のための学生アンケート」の設問について、105分授業の評価ができる質問項目を加える。
- ②「シラバス」及び「授業改善のための学生アンケート」に基づき、105分授業における項目の点検を行い、改善のための策を講じるよう努める。

■学位プログラム(学部学科)レベル

- ①教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)とシラバスの整合性。
- ②シラバスと実施した授業(「授業改善のための学生アンケート」結果)に基づき、開設科目の妥当性及び105分授業の実施が効果的な教育となっているか評価する。

■個々の教員のレベル

- ①前年度のシラバス及び「授業改善のための学生アンケート」に基づき、今年度シラバスの妥当性を評価する。
- ②今年度シラバスと「授業改善のための学生アンケート」に基づき、計画通りに授業を実施し、シラバスに示した科目の到達目標を学生が身につけることができたか評価する。

【テーマ2. 学修成果の可視化】

学修者自身が学修成果を自覚し、成長の糧となるような仕組み作りをめざし、学修成果を客観的な指標を用いて可視化することが重要である。そのために、教職員一人ひとりがFD・SD活動に積極的に参画することの意義を再認識することを目標とする。

(1) カリキュラムマップ

- ①学位授与方針(DP)・カリキュラムポリシー(CP)とカリキュラムマップとの関連性について
- ②既存のカリキュラム表とカリキュラムマップとの関連性について

(2) アセスメントポリシー(アセスメントプラン)(AsP)

- ①DPとジェネリックスキルの学修到達度との関連性について
- ②AsP策定計画に基づく実行
- ③PROGテストの実施(令和2年度入学生対象)
 - 第1回 令和2年4月9日(木)13時～14時40分
 - 第2回 2学年修了時(令和3年度)
 - 第3回 卒業年次(令和5年度後期)
- ④TOEIC®試験の全学実施

【具体的な取組事例】

■全学のレベル

- ①本学独自の学修成果の可視化に資する情報を構築する。
- ②GPAの信用性を担保するための度数分布等の情報共有。

■学位プログラム(学部学科)レベル

- ①学位授与方針(DP)に定められた到達目標の達成状況を明らかにする。
- ②シラバスと実施した「授業改善のための学生アンケート」に基づき、開設科目が効果的な教育となっているかを評価する。

■個々の教員のレベル

- ①今年度シラバスと「授業改善のための学生アンケート」に基づき、計画通りに授業を実施し、シラバスに示した科目の到達目標を学生が身につけることができたか評価する。
(テーマ1と共通課題)

【用語集】

■アセスメントテスト

学習到達度調査。学修成果の測定・把握の手段の一つ。ペーパーテスト等により学生の知識・能力等を測定する方法の総称で、外部団体・企業等が開発するものの他に、近年は大学内で作問等を行い学習到達度の確認に使用している例もみられる。

米国で導入されているCLA (Collegiate Learning Assessment)、ETS R Proficiency Profile、C AAP (Collegiate Assessment of Academic Proficiency)、ETS R Major Field Test 等のアセスメントテストは、一般に、大学内で抽出された低学年・高学年双方の学生が受験し、その点数の推移等で大学の教育効果を把握する目的で導入されているものであり、学生個人々の能力を判定するものとは異なる。

■アセスメントプラン

学生の学修成果の評価(アセスメント)について、その目的、学位プログラム共通の考え方や尺度、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針。

■カリキュラムツリー

カリキュラムにおける履修の体系性を示すため、授業科目相互の関係や学修の道筋等を表した図の総称。表現する形や内容により、履修系統図やコースツリー、カリキュラム・チャートとも表現される。学生と教職員がカリキュラム全体の構造を俯瞰できるようにすることで、体系的な教育課程の編成・実施や履修を促す意図を持つ。

■カリキュラムマップ

学生が身につけることが期待される知識・技能・態度等、学修目標として示される項目と授業科目との間の対応関係を示した図の総称。学生と教職員がカリキュラム全体の構造を俯瞰できるようにすることで、体系的な履修を促す意図を持つ。学修目標と各授業科目の対応に加

え、授業科目の目標や、開講学期等と組み合わせてマトリクス形で示されるものが多くみられる。カリキュラムマップのうち、特に順次性や授業科目間の関係性を示すことを重視して、チャート型等で示したものは、カリキュラムツリーと呼ばれる。

用語集の出典:文部科学省『「教学マネジメント指針」用語解説』 2020. 1. 22

【全学的な FD・SD 研修会の開催】

■第 1 回 FD・SD 研修会 (4 月 1 日)

テーマ:①令和 2 年度 FD・SD 活動方針について

②アセスメントテスト「PROG」について

③研究倫理研修会

■第 2 回 FD・SD 研修会 (5 月～6 月) (外部講師予定)

テーマ:IR を活用した教育改善活動(内部質保証システム)(仮題)

■第 3 回 FD・SD 研修会 (9 月) (外部講師予定)

テーマ:ハラスメントの防止について(仮題)

■第 4 回 FD・SD 研修会 (10 月 31 日) (外部講師予定)

テーマ:到達目標・達成度等を計れるシラバスづくり(仮題)

■第 5 回 FD・SD 研修会 (12 月)

テーマ:FD グループ研究報告会

以上